

授業振り返りアンケートの結果は教員顕彰にも活用されています！

特別優秀授業賞

本学の授業において、特に優れた教育能力を発揮した教員に送られる賞です。毎年3名の方が表彰されます。（※今回は令和5年度の授業に対するものです。）



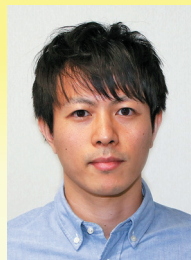
スポーツ人文・
応用社会科学系
国重 徹 教授

このたび特別優秀授業賞を受賞し、心より感謝申し上げます。約40年にわたり授業を行う中で、順調なときもあれば、思うようにいかないときもありました。しかし、学生とのやり取りを通じて毎回新たな気付きや学びがあり、授業の奥深さを実感しています。今後も学生と共に成長できる授業を目指し、双方にとって有意義な学びの場となるよう、引き続き真摯に準備・実施してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



スポーツ人文・
応用社会科学系
梶 ちか子 教授

授業の仕方、内容には正解がないため、日々、「より良い授業とは何か」を求めて、試行錯誤しています。特に多様性が求められる現代社会において、体育大学という同質性の高い集団の中で、如何に学生自身が持っている「普通」「当たり前」の概念を取り払い、様々な価値観に気づき、共有できるかが、現代の教育の鍵になっていると感じています。学生達が一人一人の存在を尊重し合えるような授業を、今後も探究していきたいと思います。



スポーツ・武道
実践科学系
成田 健造 講師

受講生の多くが「水泳はきつい、寒い、楽しくない」と感じており、実は私も同じ気持ちです。だからこそ、その現状に向き合い、どうすれば学びの深い、意義のある授業になるかを考えています。実は、皆さんが思う以上に教員も授業にこだわり、毎回ドキドキしながら授業に挑んでいます。体育大の専門教員として、皆さんの水泳の見方が少しでも変わり、「水泳って意外と楽しいかも？」と思えるよう、今後も励んでいきます。



優秀授業科目担当者



令和5年度優秀授業賞で顕彰された教員の一覧です。

「授業振り返りアンケート」は、受講学生のより充実した学びを促進するとともに、教員の授業改善の取組を加速させることにも寄与しています。毎学期のアンケートは大変かもしれませんが、学生自身の率直な振り返りが本学の教育の質を向上させることにも繋がっていることを理解し、取り組んでいただければと思います。

実技科目	
小崎 亮輔 柔道④	梶 ちか子 ダンス① ダンス②
北村 尚浩 アウトドアスポーツ実習(夏季)	日下 知明 アウトドアスポーツ実習(夏季)
坂口 俊哉 アウトドアスポーツ実習(夏季)	坂中 美郷 バレーボール②
塩川 勝行 サッカー②	下川 美佳 なぎなた
高橋 仁大 テニス①	中谷 太希 陸上・体操・水泳①(器械運動)
成田 健造 陸上・体操・水泳②(水泳) 陸上・体操・水泳④(水泳)	濱田 幸二 バレーボール②
前村かおり バスケットボール①	萬久 博敏 陸上・体操・水泳②(水泳) 陸上・体操・水泳④(水泳)
三浦 健 バスケットボール①	村上 俊祐 テニス①
村川 大輔 サッカー②	山下龍一郎 陸上・体操・水泳①(器械運動)

講義・演習科目	
小澤 雄二 武道学概論	梶 ちか子 特別活動論 保健体育科教育法Ⅰ 保健体育科教育法Ⅱ 保健体育科教育法Ⅲ 保健体育科教育法Ⅳ 教職実践演習(中・高)
金高 宏文 キャリアセミナー キャリアデザインⅢ	国重 徹 総合英語Ⅱ(プレゼンテーション入門) キャリアデザインⅢ
栗山 靖弘 教職実践演習(中・高) 国語・文章表現法 生徒・進路指導論	小森 大輔 教職実践演習(中・高)
坂中 美郷 教職実践演習(中・高)	笹子 悠歩 教職実践演習(中・高)
下川 美佳 教職実践演習(中・高)	隅野 美砂輝 スポーツマーケティング論 キャリアセミナー
関 朋昭 スポーツマネジメント概論	永原 隆 教職実践演習(中・高)
中村 勇 武道学概論 キャリアデザインⅢ	中本 浩揮 教職実践演習(中・高) 教育相談・カウンセリング論
成田 健造 教職実践演習(中・高)	濱田 幸二 教職実践演習(中・高)
藤田 英二 コンディショニング論・実習	前阪 茂樹 武道学概論
森 克己 教職実践演習(中・高)	吉田剛一郎 運動生化学

お知らせ

4月から
教育企画・評価室の場所が
大学院棟から
管理棟1階・教務課内
に変わります！

鹿屋体育大学での
4年間が充実する秘密の書



外伝・鹿屋体育大学マークの秘密・
学生生活の思い出、卒業後の進路、就職活動のヒントなど、
4年間が充実する秘密の書



〈発行〉

鹿屋体育大学 教育企画・評価室
〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地

・TEL&FAX : 0994-46-5082
・E-MAIL : kyoumu-ap@nifs-k.ac.jp

〈企画・編集〉

北村尚浩・淵田留美・鶴丸理穂子

NIFS-AP News

2025.4 vol.16

- ◆ 教員から体育大生へのメッセージ
- ◆ スポーツで未来を拓く自分を創る
- ◆ 教員顕彰



写真:保健体育科教育法の授業風景

Topic1

教員から体育大生へのメッセージ



スポーツ人文・応用社会科学系

日下 知明 講師

研究キーワード

スポーツ政策、

官民パートナーシップ、

政策ネットワーク、

ガバナンス

誰かの「正解」は私の「正解」？

「目標達成に向けて無駄なことはしたくない。」「最短ルートで目標に到達したい。」「誰もが一度は考えたことがあると思います。このとき、「〇〇すれば上手くいく」という「正解」を知りたいという欲求がしばしばセットになっています。そして、上手くいっている他者をみつけて「どうすれば上手くいくのか」という「正解」を聞きだそうとします。

上記のようなことは日常でよく見聞きします。一方で、私自身の経験を踏まえて思うことは、目標に到達するためのルートは1つとは限らないのではないかと思います。目標に到達するためのルートはいくつもありえます。そのため、他者の歩んだルートが、自分にとって良いルートであるとは限りません。また、そもそも自分が目指している目標が、他者と同じであるともいえないのではないのでしょうか。自分の登ろうとしている山が他者と異なる山なのであれば、通る道はもちろんのこと、登るための準備も自ずと違ってきます。誰かにとっての「正解」を聞き出したところで、それが自分にとっても「正解」であるとは言い切れないように思います。

もちろん人の助けも必要ですが、自分の目標に到達するための道のりは自分で切り拓いていくしかないと思います。そして、その道中においては、悩み、もがき、葛藤することでも少なくありません。また、そのルートが正解だったかどうかはしばらく経ってみないとわからないかもしれません。ただ、苦しみながらも自分の足で歩き続けることをやめなければ、様々な学びを得ることができます。目標を到達した後も、そのプロセスを通じて得たものはやがて血肉となり、自分を助けてくれる武器になってくれることと思います。

知覚動考（ともかくうごこう）

皆さんは、「もっとあれをしておけばよかった！」と後悔した経験はありませんか？私はその後悔をしてから、「知覚動考（ともかくうごこう）」を肝に銘じています。一般的に人は、「知る→覚える→考える→動く」という順番で物事を行うとされています。もちろん、逆算力や計画力は必要な能力だと思いますが、巡り巡って、「知識を得て→覚悟を決めて→行動して→考察する」という姿勢が後悔しないためには一番大事な能力なのではないかと感じています。私は、地域資源を活用したスポーツまちづくりの研究をしている関係で様々な地域を訪れますが、そのおかげもあり、ライフワークともいえるやりたい研究を見つけることができました。

結局何を伝えたいかというと、大学の授業での学びを鹿屋に籠って机上の空論で終わらせるのではなく、もっと外の世界に視野を広げてほしいということです。違う世界や世代、各地域の方々と触れ合い、直接目で見て肌で感じることは、活きた経験値を積み重ねることができます。それはあなたの成長率や価値観の幅を大きく左右します。このような「実体験を通じた経験値への投資」は、気づき、疑問、そして客観性を持つ力となり、結果的に①自分が人生をかけてやりたいこと（Want）は何か、その周辺にある②やるべきこと（Should）、③やらないといけないこと（Must）は何か、についての考えるきっかけに繋がるのではないかと考えています。様々な行動や挑戦から生まれるあなた自身のオリジナリティは、スポーツで未来を切り拓くカギとなることでしょう。さあ、この大学で出会う一生の仲間たちと、知覚動考！



スポーツ人文・応用社会科学系

棟田 雅也 講師

研究キーワード

スポーツマネジメント、

スポーツマーケティング

SHEEP Sport and Health Education Enhancement Program

体育・スポーツ教育強化プログラム

スポーツ等の国内・国際的な優れた体育・スポーツ人やスポーツとDX技術に精通した人材（スポーツDX人材）の養成を念頭に、学部入学から大学院修士課程までの6年間を通じ、正課教育を補足する「準教育（準正課活動）」として、優秀かつ積極的な学生に対して、体育・スポーツ教育強化プログラムを運用しています。

スポーツ総合課程4年 岡 知里さん



九州体育・スポーツ学会
第73回大会
若手優秀発表賞受賞



フィリピンの小学校で
インターンシップ

SHEEPは、研究したい人のための部活動のようなもので、様々な領域の研究に興味がある人が所属しています。この活動では、研究において高みを目指す学生間の交流や、大学院生からのご指導をいただくことができます。また、金銭面のサポートとして、教材の購入や学会の旅費、TOEICの受験費用などをご支援いただきました。活動を通して、卒業研究の他に1つ研究をやり遂げたことが一番の成果だと感じています。指導教員である宮崎先生の手厚く熱いご指導をはじめ、チューターの大塚さんやメンバーの方々との議論や、2度の学会発表にかかる旅費のご支援のおかげで、研究に没頭することができました。この経験を学部生の間に得ることで、伝え方を養えたと感じています。春からは、大学院に進学し研究を続けます。目標は研究者としての武器を見つけることです。今は何者でもない自分が何者かになれるよう、たった2年間の修士課程を有意義に過ごしたいと思っています。

学生挑戦プロジェクト

学生の叶えたいプロジェクト、実現したい企画を募集し、その実現を支援することにより、学生の自主性、企画力、創造性を養うとともに、キャンパスライフの充実・活性化を図ることを目的とし、毎年実施している事業です。

スポーツ総合課程2年 高松 奏さん



フィリピンの小学校で
インターンシップ



①【取組の概要】

私のプロジェクトは「個人では実現が困難な大きな夢が盛り込まれた企画」です。場所はフィリピンのセブ、期間は8/5から9/20までの7週間。主に3つの活動をしました。3週間の語学留学、4週間の公立小学校でのインターンシップ、スラムでのボランティア活動。メインの活動であるインターンシップでは、日本語・日本文化の授業や折り紙を教えたり、授業見学などを行いました。

②【活動から得られたこと】

自分自身の語学力やコミュニケーション能力の向上だけでなく、国内のインターンシップでは経験できない貴重な体験を多くできました。また、自らアクションを起こして、経験を増やすといった「行動力」が鍛えられました。他クラス・他学年のクラスに訪問して、自ら先生方と交渉して自分の授業や折り紙を教える時間を設けてもらい、行えたことは良い経験になりました。

③【これからの抱負】

自ら行動を起こさないと何も学べないし、待っているだけでは経験できない、ということをもっと感じた7週間でした。海外にいるからとか、そのときだけでなく、今後も様々なことに積極的に挑戦し続ける人でありたいと思っています。今後の目標や挑戦したいことは、まずは語学力の向上、そして近い将来は海外で働くという経験をしたいと思っています。

活気ある（Active）、独創的な（Creative）、精鋭（Elites）

A.C.E.KANOYA

を目指そうプロジェクト

NIFS学生広報スタッフ

学生の視点から大学広報に参加してもらう制度。大学広報につながる企画や取材、YouTube投稿用動画の司会進行・撮影・編集、公式SNSの投稿用写真撮影などを行っています。



スポーツ総合課程2年 田邊 海士さん

①【取組の概要】

大学の広報活動として、「学校認知度の向上」、「受験者数の増加」を目的とした取り組みを学生目線や保護者目線に近づけて行なっている。

②【活動から得られたこと】

自分自身も知らなかった大学の有益な情報を得ることができ充実した大学生活に繋げることができている。また広報活動をしていく中で、これまでは関わりのなかった職員の皆さんや学生、地域の方々との出会いが増えた。それにより鹿児島県のことや鹿屋市の良さを知ることができた。また動画の内容や編集の工夫、戦略など大学広報係として求められていることをしっかり考えるようになり、マネジメント的な能力や編集能力が身についてきた。

③【これからの抱負】

大学広報係の目的として掲げている「学校認知度の向上」と「受験者数の増加」を達成できるようにやるからには結果を求めて頑張りたいと思います。ただの広報活動ではなく本質的な「広報」を目指します。



本学修了生のパリ五輪金メダリスト
杉野 正堯選手と学生広報スタッフ

Blue Winds 学生マネジメントスタッフ

鹿屋体育大学と鹿屋市の地域密着型スポーツブランド「Blue Winds」において実施するイベントの運営に携わっています。



スポーツ総合課程4年 福田 栄太さん

①【取組の概要】

Blue Winds 事業の運営に携わり、学生マネジメントスタッフとしてイベントの企画、準備、進行管理を担当しました。参加者対応、備品準備、関係者との調整を通じ、スムーズな運営を実現するため、スタッフで密な連携と柔軟な対応を心がけました。

②【活動から得られたこと】

この活動により、実践的な運営経験とともに、課題解決力や調整力、コミュニケーション能力が向上しました。予期せぬトラブルにも冷静に対応できる力を養い、自己成長と達成感を実感する貴重な経験となりました。

③【これからの抱負】

私自身は卒業を迎えますが、ここで得た経験が今後の人生の礎になると信じています。Blue Windsの活動が今後も多くの学生に学びと成長の機会を提供し続けることを願い、卒業生として別の形で応援・貢献していきたいと考えています。



カレッジスポーツデイの様子（硬式野球部）